

2017年12月19日受信

カマ堰再建工事、白熱

2017年12月19日



事務局のみなさん、後藤・村上先生、

お疲れさまです。

カマ第二堰の工事がやっと、基礎工事終了直前までにこぎつけました!! 約一か月半の遅れです。これ以上遅れると、増水期の2月下旬に間に合わず、今期の工事を放棄せねばならないところでした。今週から、ファヒム技師らが現場に入り、怒声で叱咤しながら大奮闘、急速な進行を見えています。昨日までに約1000 m²の基礎コンクリートを終了、明日より3日間で床面の鉄筋組みとコンクリート打設を終えます。この間、河川工事の厳しさを知らぬ技師を解雇、ガンベリ方面で作業員が扇動される動きなどがありましたが、断然たる態度で臨み、秩序を維持しています。何とかこの一週間で決着をつけます。

昨日、FAO側と「訓練計画」の大綱が話され、アフガニスタン東部方面でPMSが責任を以てFAOと協力、実施することが約束されました。所長の理解もあずかって、初期の頃よりもずいぶん話が煮詰まり、やはり「下部レベルの技術改善」が焦点になったと思います。せっかく技術者を留学させて育成しても、周辺の現場監督レベルの向上がないと単なる知識で終わり、実際の工事ができません。このことは、ジャララバード事務所側も最近になって痛感し始めたことで、この15年間、後継の技師を養成しようとしても、少し技術や知識が身に着くと、楽で収入の多い方に逃げていきます。結局、残ったのがファヒムら、ごく少数の技師とPMSの現場監督で、この実情は、医師が逃げ出す、以前の病院運営でも全く同じでした。

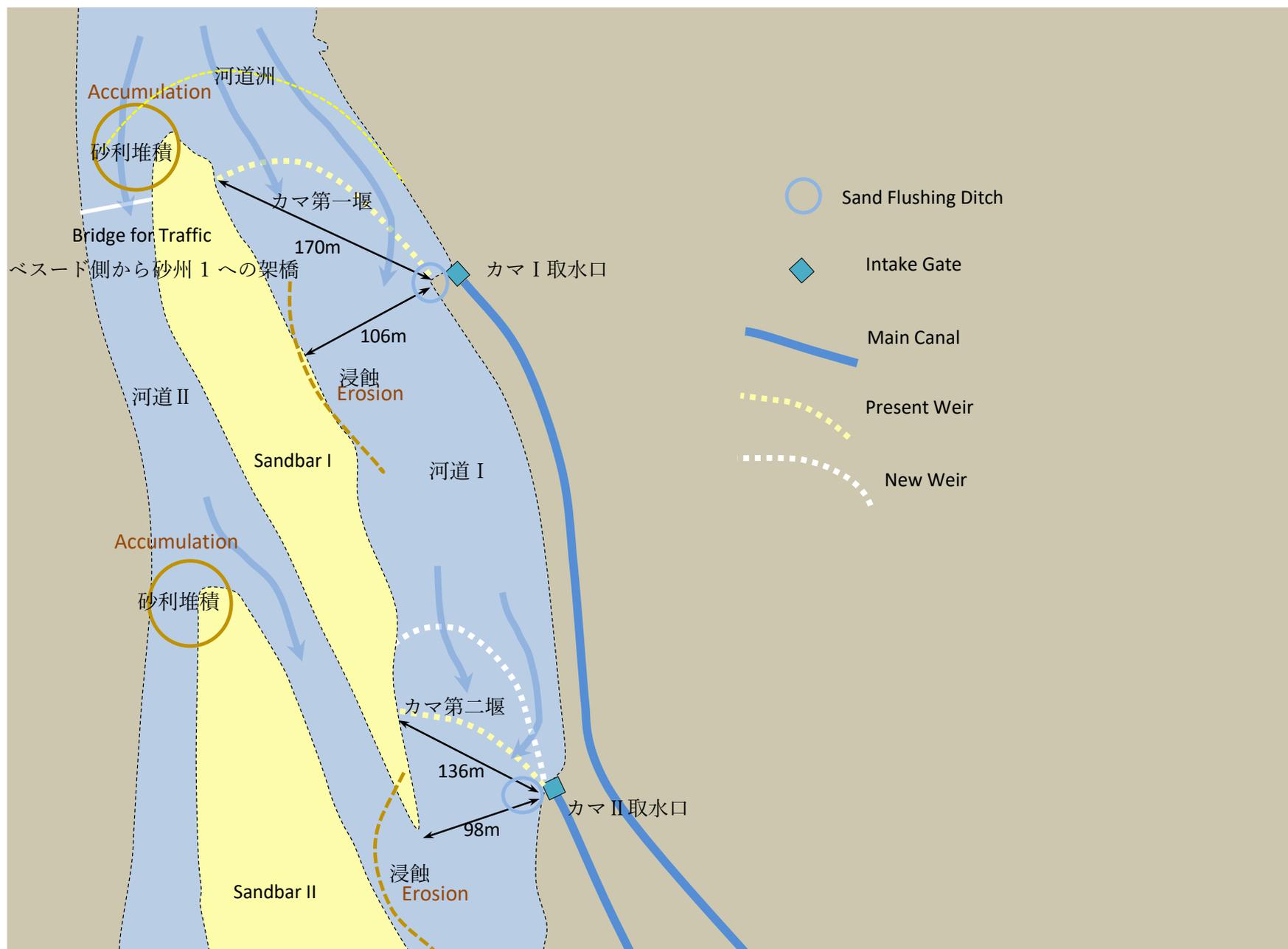
FAO側も、このことは十分認識していて、訓練計画では請負会社の技師、行政（農業省・農村開発省・水エネルギー省）の技術者を対象とし、幅広く地域農村指導者、ミラバーン（水主）にも現場の技術を普及しようという趣旨になっています。実施は来年から1年間、約100名を被訓練者として実施されます。訓練計画はPMSが経験を生かして組織し、FAOが協力するというもので、こちらも本来の目的である「技術普及」に向かって良い結末になりつつあります。

いくつもの課題が同時進行ですが、明日はマルワリードII（カチャラ堰）の主幹水路3.3 kmまで試験送水が行われます。この模様は明日、お伝えします。

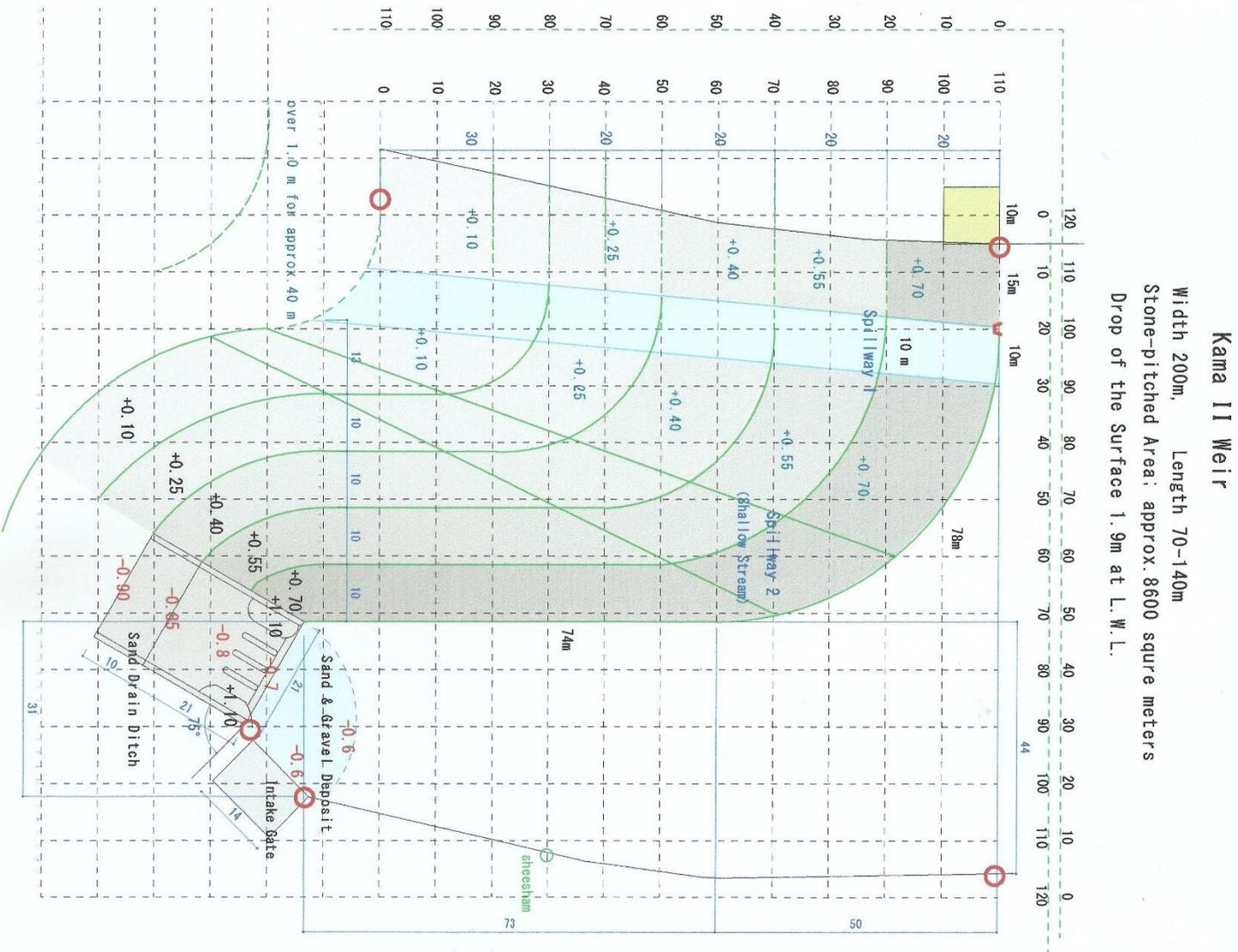
みなさん、お元気で。

2017年12月19日 記

カマ I・II 堰周辺の地図。砂州 I の長さは約 670m、5 年前に比べて上流側へ約 100m、左岸側へ約 60m 移動し、河道 1 は約 55m→110m と拡大、河道 2 は約 100m→40m と狭まっている。2015 年頃からこの位置で固定している。カマ第一堰上流の河道洲の消長が関与しているが、位置は不変、詳しい理由は分からない。



堰最終案。右岸（中洲側）の準備はできている。砂吐を作ってからでないといけないので、この完成が工期のカギを握っている。



今回は徹底的にやる。建設時に手が出なかった水門両側の護岸壁の基礎を、完全にコンクリート化して安定させる。基礎に置いた巨礫自身はしっかり残っていたが、浸食が少しずつ進んでいた。



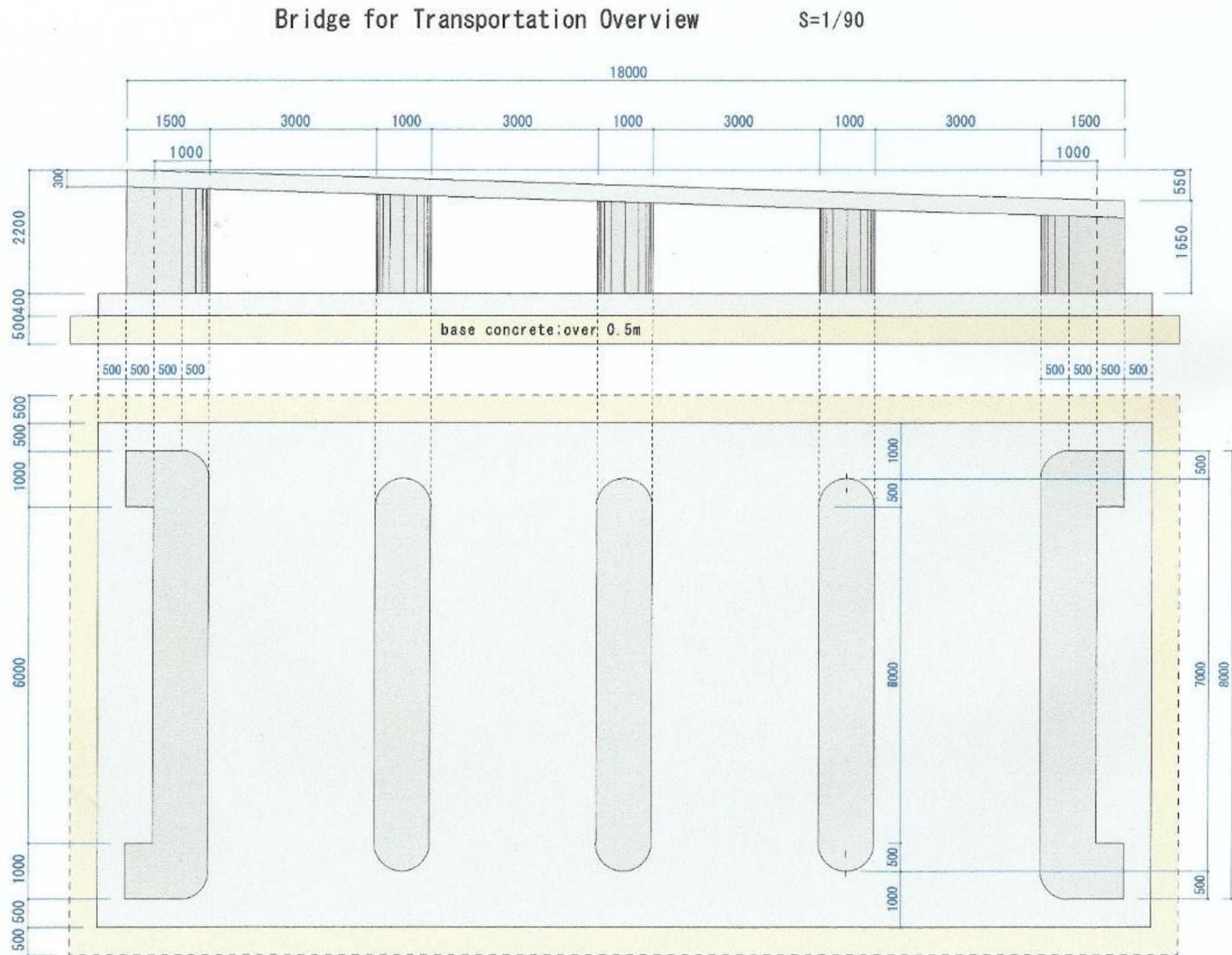
同部の近景。基礎の岩盤や巨礫層をむき出せば、こちらのものだ。



中洲への橋を下流側から見る。コンクリート打設工事は終了、全作業員はカマ側に移動している。今週中に河道Ⅱを開放し、河道Ⅰの水位を下げる。橋は夏には水没し、水位が高くなると水制のように働き、先端に洗堀が起きる。それを防ぐため、橋先端を中洲の高い位置に埋設して連続させる



という次第で、傾いた橋になっています。



河道整備の掘削で得た大きな玉石は、カマ第一堰のかさ上げに使い、カマ地域への送水は、今冬カマ第一堰に一本化する。



カマ橋

砂州 1